

ウィトルウィウス『建築十書』 バルバロ版 ヴェネチア 1567 年

中央図書館 貴重書 WG

ウィトルウィウスは、古代ローマの建築家、建築理論家で、出生地、家系、生涯などについては不明であるが、ローマ帝国初代皇帝アウグストゥス（在位紀元前 27- 後 14 年）に仕え、ユリウス・カエサルによるアフリカ遠征（紀元前 46 年）の従軍経験もあったようである。

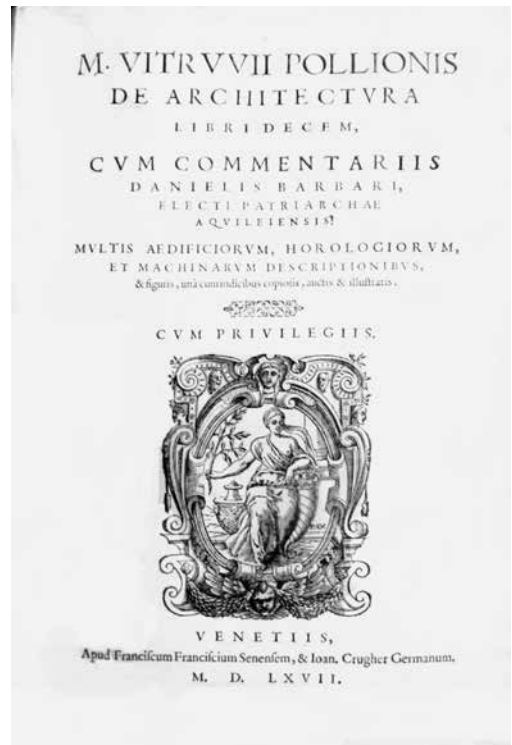
『建築十書』は、古代の建築の様々な原理について、現存する唯一の理論書であるという点で特段に重要な文献で、建築のバイブルとして、ルネサンス期から 19 世紀に至るまで、比類のない影響力をもつことになった。建築理論だけではなく、土木、工学、機械、軍事など土木工匠学のほか、方位学、天文学、公衆衛生学、数学、音楽などについても著わされた百科全書で、実用的な技術教本として編纂されたと考えられる。

本書は、1556 年に出版されたダニエーレ・バルバロ（1514-1570）による注釈書の増補改訂第2版のラテン語版である。バルバロは、ヴェネチア共和国の重鎮で人文主義者。文学や文献のほか遠近法や建築にも造詣が深く、『遠近法の実践』など著作も多数残している。100 点以上の図の中にはパラーディオの原図によるものも含まれており、多くの翻訳書、注釈書の中でも特に評価の高い一書である。レオナルド・ダ・ヴィンチのドローイングで有名な「ウィトルウィウス的人体図」、以前の版には見られないヴェネツィアの俯瞰図も掲載されている。

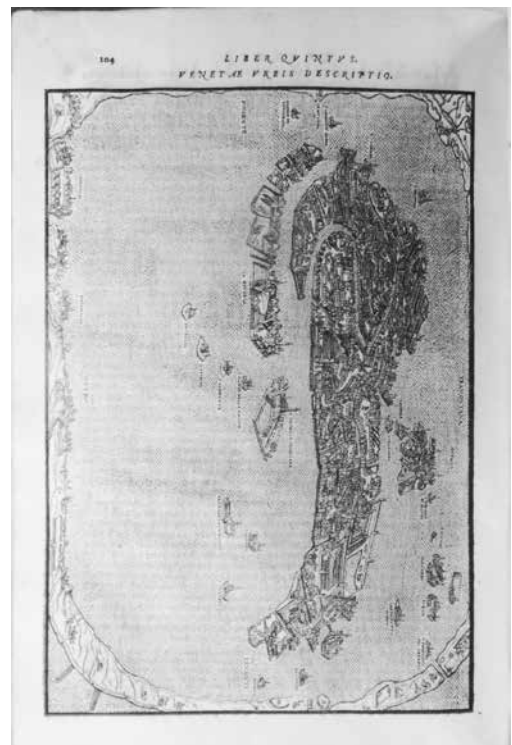
Vitruvius Pollio, Marcus

M. Vitruvii Pollionis De architectura libri decem cum commentariis Danielis Baebari.

Venice: Francesco de' Franceschi and Giovanni Chrieger, 1567.



表紙



ヴェネツィアの俯瞰図